

国際商学部(外国語) 問題解説

□■ 出題意図・評価方法・評価ポイント

- 〔Ⅰ〕 本文は、従業員の行動を定義する組織文化と、その構成要素である規範と価値観について説明している題材です。組織によって、規範や価値観が異なり、そのことで従業員が取る行動も異なることが事例を通じて明らかにされています。設問では、英語・国語・社会などの基礎学力のもとで文章の読解力があるかどうか、文章構造が把握できているかを確認することを通じて、国際商学部アドミッションポリシーに適合するかを問うています。
- 〔Ⅱ〕 本文では、世界的金融危機が発生した際、アメリカの政界で実際にあった事例を取り上げながら、市場経済の境目がどこにあるかを論じています。著者は、市場経済の境界線が必ずしも科学的議論によって定義されていないと論じています。取引の自由と政府規制の境界線は、経済学において永遠に議論されるテーマであろう。その善悪について絶対視すべきではない。国際商学部の入学者は、この点について入学時から、意識すべき問題でもあります。

□■ 受験生へのメッセージ

社会科学の分野では、言葉を通じて他者の意図を理解し、自らの見解を提示することが肝要です。英語の文献を理解するためには、文章を構成する単語や構文に関する知識のみならず、限られた時間内に文章の大意を適確に把握する能力も求められます。そのためには、文章の背後にある世界経済やグローバル企業の動向に関する英語のニュースや雑誌記事に積極的に接することが有益です。最後に、他者に自らの見解を正しく伝えるため、日本語で論理的な文章を書くことを常に意識しましょう。